

# 令和8年2月市議会 総務委員会資料

## 第13号議案 令和8年度長崎市一般会計予算

### 目次

#### 2款 総務費 1項 総務管理費 12目 情報システム推進費

#### 1 情報システム推進費 ページ

- 1 デジタル化推進費（業務改革（BPR）の推進）・・・・・・・・・・ 2～4
- （最新のテクノロジーに触れる場の創出）・・ 5～7

情報政策推進部

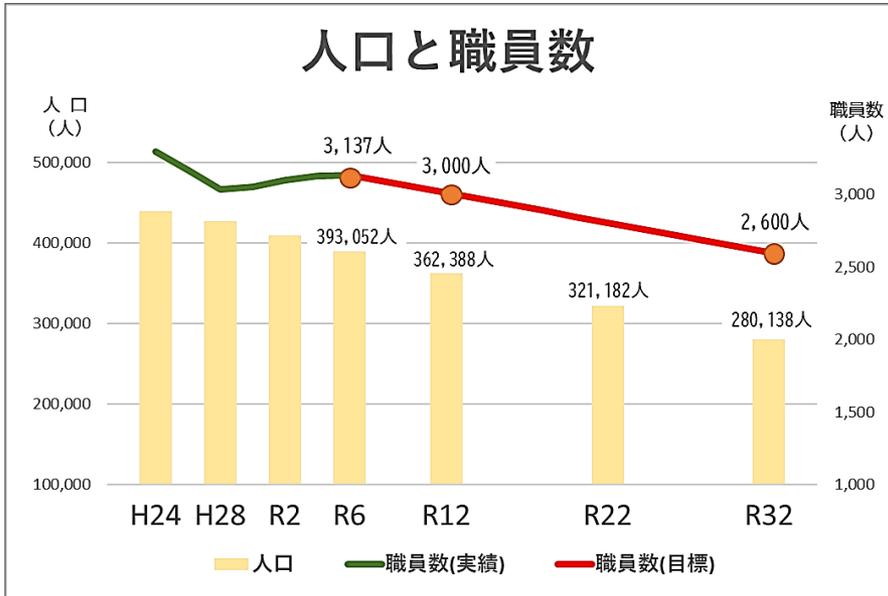
令和8年2月

予算説明書					事業名	予算額
ページ	款	項	目	番号		
126～127	2 総務費	1 総務管理費	12 情報システム推進費	2-1	デジタル化推進費 (業務改革(BPR)の推進)	千円 111,058 (36,777)

## I 概要

### (1) 現状・課題

本市においては、人口減少や少子高齢化の進展が見込まれており、これに伴う税収の減少などを背景に今以上に限られた財源や人員の中で、持続的かつ安定的に質の高いサービスを提供していくことが求められている。



(出典) 第2期長崎市行政経営プランより抜粋

### (2) 長崎市DX推進計画における位置づけ

基本施策5-2「業務の見直しと働き方の改革」

#### 3年後のめざす姿

デジタルツールの導入や業務の整理等が進み、職員が効果的・効率的に業務を遂行している。

#### 取り組み内容

- 国の方針に則り情報システムの標準化・共通化を進めます。
- BPRの手法を用いた業務改革を実行するとともに、デジタル技術を活用した事務作業や現場業務の生産性向上等に取り組みます。
- データ利活用(EBPM)を推進します。
- ペーパーレスやテレワークの推進など、職員が働きやすい環境整備を図ります。

(出典) 長崎市DX推進計画より抜粋

※BPR(Business Process Reengineering)とは、業務プロセス全体を再設計し、生産性向上や効率化を図る手法。

## 2 事業内容

### (I) 取組みの方向性

業務改革（BPR）の推進については、短期的に成果を挙げることをめざし、各所属の業務量やプロセス等を可視化することで業務の問題点・課題を分析し、業務プロセスの見直しや業務効率化に向けた取組みを推進する。

また、中・長期的には、業務改革（BPR）が継続的に実行されるよう、人材育成や体制構築、ルールの整備、ICT環境の充実等に取り組む。

### 2つの取組で業務改革を推進

#### 短期的取組（重点的対応）

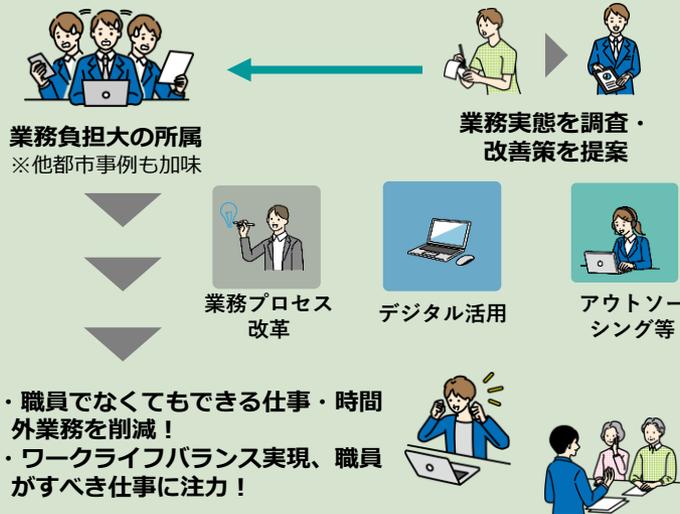
##### 目的

- ・業務の負担が大きい所属の業務効率化  
⇒職員の業務時間の削減が図られる

##### 手法

- ・業務の実態調査と課題の把握・分析  
⇒業務プロセス改革の実行、アウトソーシングやICTツールの活用

##### イメージ



#### 中・長期的取組（土台づくり）

- ・業務改革を推進する機運の醸成
- ・業務改革がしやすい環境の実現  
⇒継続的に業務改革が実行されるようになる

- ・業務改革の「実行」人材と「支援」人材の育成
- ・推進（支援）体制の構築
- ・仕組み（ルール）の構築（実施方針、可視化等）
- ・ICT環境の改善・充実

#### 継続的な業務改革の実行を実現！

職員にしかできない業務に注力できる組織へ



## (2) 令和8年度の事業内容

ア 委託料 15,232千円

イ 使用料及び賃借料（RPA・AI-OCR等）

21,545千円

### 短期的取組

BPR取組みの流れ



令和8年度は、対象所属を3所属から15所属に拡大し、**令和7年度の改善事例**と類似した業務を実施している所属を中心に改善事例の横展開や時間外が多い所属の業務を重点的に見直すなど、**約7,800時間の削減につながるよう取り組んでいく**。  
また、アウトソーシング可能な業務の調査・整理を行い、実施に向けた検討を行っていく。

### 令和7年度改善事例



令和7年度は障害福祉課、こども政策課、土木総務課の3所属の業務を対象とし、主に**業務プロセスの見直し**及び**デジタルツールの活用**による業務の効率化に取り組んだ。これらの取組みにより、今後各業務当たり**平均約300時間/年の削減**が図られる見込み。

### 中・長期的取組

「人材」「体制」「仕組み・ルール」「ICT環境」の4つの取組みについては、短期的取組と並行して進めていく。

**BPRを牽引する職員の育成**



**BPRを支援する体制整備**



**BPRを継続するルール整備**



**BPRに取り組める環境整備**



## 4 財源内訳

事業費	財源内訳				
	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
千円 36,777	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 36,777

予算説明書					事業名	予算額
ページ	款	項	目	番号		
126～127	2 総務費	1 総務管理費	12 情報システム推進費	2-1	デジタル化推進費 (最新のテクノロジーに触れる場の創出)	千円 111,058 (29,822)

## I 概要

### (1) 現状・課題

#### ア テクノロジーに関する学びを深める場の不足

GIGAスクール構想の推進により、プログラミング教育が充実し、学校教育の過程でテクノロジーに興味を持った子どもたちが増加しているが、さらに学びを深める場が十分ではないことから、このような子どもたち及びその保護者のニーズ等に合った場を提供する必要がある。

#### イ IT人材の不足

国（経済産業省）の調査によると、令和12年に国内で最大約79万人のIT人材が不足することが予測されている。

また、長崎市第五次経済成長戦略において、「情報・環境関連分野」を成長可能性分野の一つに位置づけ、情報関連分野の長期的な成長をめざしていることなども考慮すると、本市における若い世代のIT人材育成は、経済再生の観点からも有用である。

### (2) 長崎市DX推進計画における位置づけ

基本施策3-1「新たな価値を生み出すチャレンジ環境の創出」  
3年後のめざす姿

チャレンジしやすい環境整備は進み、意欲ある人や企業のチャレンジが増えている。

#### 取り組み内容

- スタートアップやオープンイノベーションの取り組みを支援し、新たな事業・サービスの創出を推進します。
- 大学・民間企業等と連携して若者の学びの機会を創出します。
- **こどもたちがデジタル技術を自由に学び、楽しみ、挑戦できる場や機会を提供します。**

(出典) 長崎市DX推進計画より抜粋

## 2 事業の目的・概要

デジタル技術に興味を持つ子どもたちに、最新のテクノロジー（VR・AR※1や3Dプリンタ、プログラミングなど）に触れられる場を提供することで、子どもたちのニーズを充足し、学びの場としての魅力を実感してもらうとともに、若者のチャレンジ促進や情報通信関連産業の活性化に向けたIT人材の育成を図ることにより、若者に選ばれる魅力的なまちをめざすもの。

令和6年度から長崎大学と共同で3年間の実証事業を行っており、現在は民間企業との連携も進めている。

## 3 これまでの取り組み

	令和6年度	令和7年度
名称	創造スイッチ tec-nova Nagasaki（テクノバながさき）	
開催期間	令和6年7月～10月 42日間開催	令和7年7月～令和8年2月 86日間開催（予定）
設置場所	長崎大学文教キャンパス	長崎大学テクノロジーイノベーションキャンパス（NUTIC）
参加状況	のべ参加者数：393人（実利用者数：145人）	のべ参加者数：662人（実利用者数：199人） ※1月末時点
イベント	開催回数1回 参加者数：402人	開催回数8回 のべ参加者数：1,823人
協力企業	8社	15社



普通のテクノバ  
（ロボットプログラミング）



アンリアルエンジンコラボ  
（アンリアルエンジンハンズオン・3Dモデリング）



オープニングフェス  
（ゲームプログラミング）



ココウォークイベント



ピースクラフトコンテスト  
（マインクラフト）

## 4 令和8年度実証内容

- ・令和7年度は7月～2月末までとした実証期間を5月～2月まで延長し、通年で実施できるようにする。
- ・長崎大学との連携体制は維持しつつ、安定した運営のためにNPO法人への委託や、次年度以降の継続に向けた検証を行う。

※1 VR・AR：VR（Virtual Reality）仮想現実、AR（Augmented Reality）拡張現実

## 5 令和8年度の事業内容

### (1) 場の創出に向けた実証事業 9,822千円

ア 委託料（運営委託費）	7,850千円	ウ 報償費及び旅費（講師招へい）	192千円
イ 備品購入費（高性能PC等）	800千円	エ その他（チラシ作成委託料等）	980千円

### (2) (仮称) テクノバフェス2026の開催【長崎スタジアムシティ関連事業】 20,000千円

テクノバながさきの認知度向上と企業連携の促進を目的として、長崎スタジアムシティハピネスアリーナで2日間開催するもの。

テクノロジーとスポーツが融合した「HADO」の体験ほか、大学や企業との連携により最新のテクノロジーを体験し、デジタル技術への興味を引き出し、テクノバながさきの参加へとつなげるイベントとする。

#### 会場イメージ

<b>HADO</b> (AR×スポーツ)	テクノバながさき・ 企業・長崎市 他 (ブース出展等)
長崎大学・東京大学 他 (ワークショップ等)	

HADO



テクノバフェス  
2025

## 6 財源内訳

事業費	財源内訳				
	国庫支出金 ※2	県支出金	地方債	その他※3	一般財源
千円 29,822	千円 4,836	千円 -	千円 -	千円 22,567	千円 2,419

※2 地域未来交付金（地域未来推進型） 国庫補助率 事業費（9,672千円）の1/2  
（イベント保険料は補助対象外）

※3 企業版ふるさと納税基金繰入金